

『菅家文章』「224 春盡」に「花鳥從迎朱景老、鬢毛何被白霜侵」の句がある。

○妍 ……あでやかな。うるわしい。

69○土風……当地的風俗、その土地の風俗。土俗。『漢語大詞典』では「当地的風俗」と説明し、袁宏の『後漢紀』

「明帝紀」上の「夫民之性也、各有所稟、生其山川、習其土風」の一文、及び杜甫の「負薪行」の

「土風坐男使女立、男當門戸女出入」の二句を引く。『菅家文章』「266 江上晚秋」に「鷗鳥從將天性

狎、鱸魚妄被土風羞」の句が、『菅家後集』「486 哭奧州藤使君」に「土風絶布惡、殷勤責細美」の用

例が見える。↓補説①

○漸漬……次第に水がしみこむ。風習などに次第に感化される。

70○習俗……世のならわし。習慣と風俗。習風。世間一般の慣わし。『漢語大詞典』には、「①習慣・風俗」と説明

し、さらに【習俗移入】として「本作習俗移住、謂風俗習慣可以改変人的本性」との説明がある。

○擬 ……するつもりである。しようとする。

71○苦味……苦味、にがい味わい。『漢語大詞典』では「苦的味道、比喻經受的苦痛」と説明し、『管子』「幼官」の

「君服赤色、味苦味」の用例を載せる。ここでは、道真が京で食してきた塩と（おそらくは、藻塩に

比して）この地の塩が、苦味の強いことをさしているものと解した。

○鹽 ……海水を煮詰めた人造のもの。（藻塩は塩に海草の味を漬けたもの）。

○焼木……塩を作るのに燃やす木のことか。炭のこととも云う。

72○邪羸……不正の儲け。勤勞せずして利を得ること。

『史記』『貨殖傳、索隱述贊』に、「麀居善積、倚市邪羸」の一文が、また、『文選』張衡の「西京賦」